

## 秘密

誰でも秘密は抱えているものですね。  
あなたにとって秘密はどんなものですか？

### LIFESTYLE

#### Niquis Miquis

昨年OPEN! 道産食材に  
こだわったスペイン料理専門店 P2



### INFORMATION

#### 記念誌「学校ってなんだ？」

60周年を記念して卒業生や  
北星余市関係者の声を集めました P8



### BOOK

## 宝物のような手紙

『長くつ下のピッピ』など数多くの名作を生み出した、児童文学作家、アストリッド・リンドグリーン。この本は、リンドグリーンとある少女の80通以上にもわたる手紙の記録です。当時何千通もの手紙を読者から受け取っていたリンドグリーンが、12歳のサラとだけ文通をしていたとは驚きです。文通は二人だけの秘密でしたが、2002年にリンド

グリーンが亡くなり、サラの協力を経て本となりました。

家族との確執や学校でのいじめに孤独を感じていた少女時代、そして成長してからも、許されない恋や宗教にのめり込むなど、不安定な思春期を過ごしたサラ。そんなサラの激情を包み込むようなリンドグリーンの言葉が印象的です。そこに決してごまかしはなく、対等に、一人の人として向き合っているのがよくわかります。そして、この本を出版するにあたって書かれたリンドグリーンへの最後の手紙で明かされる、語られることのなかったサラの秘密。今、居場所がないと感じている人に読んでほしい一冊です。



#### リンドグリーンと少女サラ 秘密の往復書簡

アストリッド・リンドグリーン /  
サラ・シュワルト / 石井登志子 訳  
岩波書店 / ¥2,530

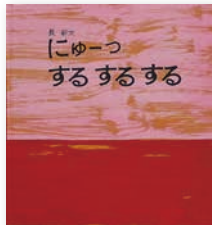


### LETTER



秘密は、誰の目にも隠されているって思っていたら大間違いなのです。秘密は、誰も知らないことだと思っていてもかもしれないけれど、実はみんなが知ってる当たり前のことだったりします。英語の慣用句で「Elephant in the room / 部屋の中の象がいる」というのがありますが、まさしく、大きな問題をみんなが見て見ぬふりをしているというような意味です。秘密って、こういうもの。みんなが知っているけど、口にははいけないうって思って、言わないようにしているだけで、実は大人も子どももみんなが知っていることだったりするのです。

この絵本は、地面から巨大な手が出てきて、いろんなものを地面に引きずり込んでいくのですが、目撃者は読んでいるあなただけ。最後に、その手が「しーっ だれにもしゃべってはいけない」といって、姿を隠します。さて、君は、その秘密を秘密のままにしておくことができるかな？



#### にゅーっ するするする

長新太作  
福音館書店 / 品切中

### BOOK

## 気づいた時にはもう戻れない

隠したまま言えなくなってしまった秘密はありますか？この本の主人公は、フランスの小さな村一番の自転車修理工。彼の秘密は、なんと自転車に乗れないこと。家族にも

友人にも言えず、幾度か告白しようとしても信じてもらえず。彼の秘密はどんどん後戻りができなくなってしまうのです。さて、秘密を言うことはできるのでしょうか……。ユーモアたっぷりに描かれています。きっと彼の気持ちに多くの人が共感できるんじゃないかなあ。

#### 今ら言えない小さな秘密

ジャン=ジャック・サンベ 作・絵  
株式会社ファベル / ¥2,200



### BOOK

## 伝説に隠された秘密

伝説や神話は、とても現実には起こり得なさそうなことだけど、「いや、これは本当のことだな」という説得力があります。そこには、何か大きな秘密が隠さ



れてて、それを物語にして口伝で言い伝えられてきているのだと考えています。だから、誰かのつくり話ではなくて、妙に真剣に読んでしまうのですが、その起源を大真面目に辿ろうとしたのが星野道夫さんです。文字ではなく、語っている人に出会うこと、その人の歴史を辿る大冒険の物語。

#### 森と氷河と鯨 ワタリガラスの伝説を求めて

星野道夫  
文春文庫 / ¥1,078





余市から一駅、仁木駅を背にまっすぐ歩いていくと右手に頂白山周辺の等高線が描かれた暖簾がお出迎えをしてくれる。

昨年（2024年）8月にOPENしたスペイン料理専門店、Niquis Miquis〔ニクシミキス〕の大阪出身のオーナーシェフ中野隆介さんは、1年間、語学留学を兼ねてスペインを訪れた際、現地の方々の温かみや優しさに触れ、スペインが大好きになったという。帰国後は函館のスペイン料理店に勤務して腕を磨きながら、再び渡西の準備を整え、改めてスペイン料理を学びにバスク地方へと渡った。スペイン北部に位置し、海に近いバスクでおよそ2年半修行した中野さんは、せっかく開店するならばと道産食材にこ



**Niquis Miquis〔ニクシミキス〕**

余市郡仁木町北町1-65-1      電話：080-3812-2508

営業時間

ランチタイム：土・日 12:00～15:00  
ラストオーダー 14:30

ディナータイム：金～日 17:00～22:00

.....

**MENU**

リエット..... ￥500  
自家製ピクルスと余市産ニシンの酢づけ ... ￥1,260  
自家製ピクルスと酢づけ ..... ￥1,260  
ホタテのカルドツソ..... ￥1,500  
タラのサルサベルデ..... ￥1,600  
北島豚のフィレ肉グリエ ..... ￥1,600  
バエリア..... ￥1,800

## 教育実習生として北星余市へ

文 西田テオ



私は2024年8月22日に数年ぶりに北星余市に帰った。だが今回は教育実習生としてである。教育実習生は高校生から見ると先生であるが、先生としてのスキルを上達させる、学ぶ立場でもある。教育実習生の活動期間中に生徒は本来の先生の授業を受ける事が出来ず、代わりに未熟な状態である実習生の授業を受ける事になる。「あんたが実習をする事によって生徒の学ぶ時間を奪っている自覚を持った状態で来なさい」と事前に指導教官に言われたこともあり、私は本気で生徒のためになり生徒の学ぶ時間を奪わず、より生徒が学ぶ事が出来る授業にしようと覚悟を決め、「高校生が現代社会に疑問を持つこと、社会の在り方について考えるきっかけをつくること、世界の広さに気づくこと」を授業の目標とし、「言語と宗主国」「世界の宗教分布」「パレスチナをめぐる対立」「フランスへのアラブアフリカ移民とその子孫」「国籍法」「日本にも存在するルーツが原因で起きている差別」「日系ブラジル人(ブラジルへ移民した日本人と帰ってくる子孫)」「自国軍に迫害されるミャンマー人」「日本の難民受け入れの実態」を題材に選定し、9コマ×4クラスの授業構成を組み立て、教材を作成した。

私が社会科に興味を持ち、学んでいる背景には、当時北星余市の2年生であった私が、現在既に退職されている吉田先生の授業を受けたというきっかけがある。彼の授業では現代社会に存在する様々な問題を扱う事で、生徒が現代社会に疑問を持つきっかけを得る事が出来る授業であった。私はこれに加え、北星余市卒業後にフィリピンに2か月、フランスに3週間、台湾に10日程滞在した経験から、生徒が世界や社会の広さに気づき広い視点を持ってほしいという思いで授業をした。

私の思いがどれほど生徒たちに届いたのかは未知数であるが、私の授業が彼らにとって社会に興味を持つきっかけになれば嬉しく思う。



**西田テオ** / Teo Nishida

2021年に北星余市を卒業した54期生。北星余市在学時代に持った興味を学ぶべく京都精華大学へと進学したものの、学問は学べば学ぶほど興味が出るもので北星余市在学時に比べ何倍もの興味が出ている。大学卒業後は自らのアイデンティティを確立するためにフランスに渡ります。

## 我想う、シャーキャムニ・ブッダの秘密

文・イラスト 山口正雲

シャーキャムニ・ブッダとは言うまでもなく、インドではるか昔仏教を開かれたお方である。今回投稿させていただいた以下の文章は、あくまで一僧侶としての私が、想像をめぐらせた部分が多いことを、お断りしておきたい。ブッダはシャカ族の王子としてお生まれになり、父シュドーダナのいわば英才教育のもと、将来の王様となるべくして育てられた。

王子16歳頃の生活は、若い美女を十数人身近に侍らせ、生理的な欲求、性欲的な欲求すべてが満たされ、不満無きように管理されていた。人格形成上、マイナスからのスタートと言わざるを得ない。彼からは青年期のはつらつとしたオーラは見えず、ひどい言い方をすれば、ぶよぶよとした精神になってしまわれたのだと思う。しかしその後も内面の改革が出来ぬまま、ずるずると結婚した。さらに妻が第一子を身ごもるという局面が訪れた。そこで彼のとった行動は、皆が寝静まるのを見計らって、夜中に愛馬カンダタとともに、ひっそり城を抜け出してしまふ。私がおおいに尊敬し、師と仰ぐのはこのことなのだ。つまり自分自身の精神とか魂を第一にする生き方を選んだこと。はたから見える幸せだとか、世間的な安定だとかそんなことより、「このままじゃ、俺の精神が絶対にまずい」と思って行動に出たこと。心で号泣しながらも、勇気を持ってその道を歩んだことなのだ。



中札内村 曹洞宗 鶴林寺住職  
山口正雲 / Shohun Yamaguchi

東の空の曠と共に目覚め、西に流れる川にてカヤックをいそしみ、南に向かって愛犬と昼寝し、北の空地に新割りに汗を流す。

## 秘密の本と音楽と映画



'007  
ダニエルクレイグ

秘密と言えばスパイ。スパイと言えば 007。007 と言えばジェームズボンド。ジェームズボンドと言えば、のあとほどの俳優の名前が出てくるかが分かれるところ。私はダニエルクレイグです。服や車などもカッコイイです。スカイフォールが1番好きです。(中村希絵子)



時々ボソッとロシア語でデレる隣のアーリャさん  
燦々SUN 原作

主人公の幼少からの努力が愛する母親に否定された。母親には彼の頑張りがどう映っていたのか。彼が苦しうに見えたのか、子どもらしく伸び伸びと遊んでほしかったのか。今後出てくる母親の懐古シーンに注目だ。(櫻井啓吾)



アンネの日記  
アンネフランク

中学生の秘密なはずの日記を、他人にとって重要なものにはしていけなかった。ただのフツウの中学生であれたはずの、でていたはずの彼女の日記を、なぜそれ以上のものにしてしまったのか。もう2度と世界を、そんなふうにはいけないのに。(本間涼子)



パラサイト 半地下の家族  
ポン・ジュノ

目には見えない無意識的に発生する「差別」が映画の中でさりげなく映し出されている。気づかない人がほとんどだろう。人は同じ地球に生きていながら別の世界(パラレルワールド)を生きているのだろうか。(小山翔太郎)



名探偵コナン  
青山剛昌

コナンの正体を知っている人は2人しかいなくて、しゃべったら消されるかもしれない、と悟っていること、秘密を持っているキャラクターが多くて、それを考えるのが楽しい漫画です。でも、秘密は持たない方がいいです。(1A 櫻井瀬那)



B'z ファンの私の気持ち

昔から親の影響でB'zが大好きです。B'zは私の人生にとって、なくてはならない存在です。ファンとしてはとても悲しいのは、若い世代にあまり知られていないことなので、私の世代にも知って欲しいと思っています。でも私だけの秘密にしておきたい複雑な気持ちです。(3A 今井侑那)



古畑任三郎  
三谷幸喜

古畑任三郎シリーズがとても面白い。秘密やトリックが作り込まれており、大変面白い。トリック以外にも人物のかけあいが面白く、見るとすてきな気持ちになります。私は釣りのシーンが好きです。私が見たいもの詰め込まれています。ぜひご覧ください。(2B 島由弦)



秘密  
東野圭吾

死んだ妻が娘の体に宿ってしまった。そんなところから始まる秘密を抱えた家族のお話です。ある時をキッカケに娘の意識が戻り、だんだんと妻でいる時間は減っていく。運命は、愛する人を二度奪っていく。東野圭吾は天才だと実感するような小説です。(3B 田中舞)



ハリーポッターと秘密の部屋  
J.K.ローリング

ハリーが1冊のノートを見つけて、その本の昔の持ち主がボルデモートっていうのが分かって、秘密の部屋につながる。僕のおすすめは、ハリーとロンが空飛ぶ車でホグワーツまで向かったところです。(1B 菊川睦稀)



映画ドラえもん  
のび太のひみつ道具博物館  
寺本幸代 監督 / 藤子・F・不二雄 原作

ドラえもんとのび太、他のキャラとのスリルと友情がとても良いなと思いました。ポポンというキャラとドラえもんが個人的にはかわいく好きです。自分はひみつ道具ならタケコプターが空も飛べるし、いいなと思いました。(2A 本間劉星)



BEASTARS  
板垣巴留

この世界には様々な動物がいる。皆共に暮らし、友情を育み、恋に落ちる。ある時、肉食動物が友達達の草食動物を見て思ってしまった、美味しそう。友人達の為にその食欲を隠し続ける覚悟や葛藤を描いた物語。自分ならどうすると考えさせられるストーリーです。(3A 秀咲葵)



Secret base  
～君がくれたもの～  
ZONE

突然の転校で離れ離れになってしまったひと夏の思い出、10年後の再会を約束しながら、それぞれの未来への支えとなるような素敵な時間の流れを切なさを伴いながら優しいメロディーにのせてくれています。(小野澤慶弘)



変な絵  
雨穴

私が紹介する本は、『変な絵』です。とあるブログに掲載された奇妙な絵から始まる様々な事件を、残された『絵』から読み解くミステリーサスペンスです。隠された秘密を暴くことが出来るのか。ぜひ一度、読んでみてください。(3A 溝部空知)



ぶっちゃ しば漬け  
UHA味覚糖

北海道にいとまず見かけることはないけど、ぶっちゃには、関西？京都？限定でしば漬け味というのが。甘くはないが、漬け物特有の酸味が自分好みでした。お取寄せ出来るので、お試しを！(3A 星野宙)



Love, サイモン17歳の告白  
グレッグ・バーランティ

誰にも言えない悩みを抱えた青年がネットの中で分り合える仲間を探そうとするが、思いがけず身近な学校生活に繋がってしまう。変わっていく人間関係で生まれる葛藤とどのように向き合いながら、家族や友人の温かみを知る。(3A 牧野こころ)





# スポーツ大会

JULY 11-12th, 2024



# 総合講座

2・3年時に週に1回行われる授業。複数ある講座の中から受講したいものをひとつ選び、一年を通して体験します。講座の内容は様々。ぶどうを栽培してワインを作ったり、山に登ったり、海でヨットに乗ったり、カニを釣ったり…余市の自然を満喫できるものから、ダンスや和装まで。それぞれが体験を通して学びます。



COLUMN

カメラマン美穂子  
表紙写真の  
「おのざわ」



星しんぶんも発行から6年が経ち、今号で20号となりました！星しんぶんの表紙では、学校内でのさまざまな人間関係を紹介してきましたが、今回はその中でも一番登場回数の多い生徒会に、この記念すべき20号の表紙を飾ってもらいました。

北星余市の生徒会は、とにかく忙しい。年間行事は5月からほぼ毎月あり、さらにその合間には昼休みや放課後に行われる生徒同士の交流会も企画しています。これだけのイベント数の打ち合わせとなると、当然、毎日話し合いが行われます。寮や家につくのは門限近く。もちろん、本業の勉強にもフルコミットです。そんな大変な生徒会ですが、これがまた人気のポジションなのです。

生徒会ってどんな印象？と1年生に聞いてみたところ、「入学したばかりで不安な日々を送っている時に優しく声をかけてくれたり、一研（一年生研修会。入学して初めての校内行事）で一緒に歩いて励ましてくれたりする、めちゃくちゃ頼りがいのある存在」なんだそうです。私も初めて北星余市の撮影に行ったのが一研の時でしたが、騒いでいる子のそばに行って声かけをしたり、困っている子に寄り添ったりと、先生の指示は一切なく、

自分たちで考え行動している姿を見て衝撃を受けました。個人のケアもしつつ、その場全体を盛り上げ雰囲気作りをしている姿は、本当に「リーダー」と呼ぶにふさわしいのです。

しかし元々デキる子が生徒会になるのか？と聞かれれば、全員が全員そうではないと思います。人前に立つのが苦手な子もいれば、そもそも人と関わること自体が苦手な子もいます。しかし、みんなの前に立って学校の楽しい雰囲気作りに奮闘する先輩を見ているうちに、自然と「自分もあになりたいな」「やってみようかな」という気持ちになっていくのだそうです。それくらい影響力のある生徒会は、北星余市で代々受け継がれてきた「集団の中で学び、育ち、成長していく」という理念を全力で体現し、継承し続けている貴重な存在だと思います。

辻田美穂子 | Mihoko Tsujita

大阪から移住した写真家。道南のせたな町在住。北星余市でのたくさんの出会いを通して人生がかわったひとりです。パンフレットなど学校の広報物の写真を撮っているの、見かけたら「みほこー！」と声をかけてください！

QUESTION

おのざわ先生に  
きいてみよう



Q  
おのざわ先生にとって  
秘密とはなんですか？

私のこれまでを振り返るともちろん楽しいこともあるが、恥ずかしいこともボロボロと思い出される。寝起きにサッカーの試合に行った時、寝ぼけて何故かユニフォームの下がパジャマのままだったこと。集団下校の意味が分からず全校生でたった一人、先に帰ってしまい延々と全校生を待たせてしまっていたこと。記憶にはないが寝ぼけて夜中に近所の友達の家のピンポンを押したこともあったらしい。このように人にはあまり思い出したくない恥ずかしい記憶の一つや二つあるものだと思う。そんなことを何となく考えていたら、「秘密」というワードで思い出したことがある。それは「秘密を持つのは大人になった証」というセリフである。どれくらい前のことであるかも覚えていないが、何かの映画？ドラマ？のワンシーンだったように記憶している。その時は何となく見流していただけだった。しかし後になって思い返すと恥ずかしいことや人に知られたくはない思いを持つようになって、初めて「秘密」という概念を持つようになるのだということに気がついた。自分のことで精一杯の狭い世界観しか持たない小さな子どもが広い視野を持ち自分以外に目を向け、比較することを覚えた大人になっていくことで持ち得る感覚が初めて秘密を生み出すのだ。

そしてその先に「共有」という秘密を生み出すのだろう。ただ恥ずかしいではなく、特定の誰かと同じことを共有することで生まれる特別な仲間意識や連帯感というものを生み出すのも秘密の力である。なるほど、改めて「秘密」とは精神的に成長し、視野を広げ、特別な存在を作りうる「成長の証」だったのだ。

多くの若者が、ちょっとこそばゆい様な秘密と共に人生を楽しんで欲しいと願う。

INFORMATION

60周年記念講演会を  
開催しました

日頃から本校の教育にご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。さて昨年10月5日(土)本校体育館にて、赤平町植松電機社長の植松努氏をお招きし60周年記念講演『『思うは招く』～夢があればなんでもできる』を開催することが出来ました。地元の子どもたちを含め、町内はもとより道外からも駆けつけていただき盛会となりましたことを感謝と共にご報告させていただきます。

また同日、60周年記念誌として「学校ってなんだ？」を発刊させていただきましたことを併せてご報告させていただきます。本記念誌はすでに本校を卒業し、一社会人としてあゆみを進めながら、日々つまずきながらも自らの人生を楽しみ健闘している14名の若者の経験と振り返りを取りまとめさせていただきました。同じようにつまずき、悩み、迷っている子どもたちの一筋の光となることを期待しまとめさせていただきました。お求めいただければ幸いです。

最後になりましたが、本記念事業の推進のため皆様から寄付金をはじめ多くの力添えをいただきましたことに改めてご報告と感謝を申し上げます。

編集後記

星しんぶんの編集に関わるとは？五十路を越えて一番苦手なことをやるなんて考えたこともなかった。途中で学生時代に折った肋骨のようにポキポキと心が折れました。一度は発行の中止を心に決めたことも。発行に漕ぎ着けたのは助けてくれるみなさんのおかげです。(小野澤慶弘)

星しんぶん20号、発行することができました。今号のテーマは秘密。私はよく友達から秘密話をされます。秘密を共有できることは嬉しいけれど、一緒に背負われている気がして少し荷が重い…。秘密って難しいと感じています。(瀬尾涼音)



開校60周年記念誌  
学校ってなんだ？  
北星余市高校に転がってる  
“きっかけ”

本校卒業生の声、教育関係者や北星余市高校に関わる隣人からの寄稿などを掲載した、60周年記念書籍です。



こちらのからも  
お買い求め  
いただけます。



樹芸書房 / ¥1,001

